2026年度 第7回（12月）北辰テスト対策 予想問題

国語（制限時間 50分・100点満点）

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（28点）

中学三年生の蓮（れん）の祖父は、町の秋祭りの獅子舞で、長年、笛を吹いてきた。しかし祖父は、今年、腰を痛めて笛が吹けなくなった。蓮は、受験勉強があるため、笛を継いでほしいという話を断ろうと決め、祭りの前の夜、祖父の部屋を訪ねた。

縁側の障子を開けると、祖父は、畳の上にあぐらをかいて、古い笛を布でぬぐっていた。腰にあてた湿布のにおいが、ほのかにただよっている。

「じいちゃん、あの……笛のことなんだけど。」

蓮は、そこまで言って口ごもった。断る言葉は、家を出る前から何度も頭の中で練習してきた。けれど、①祖父の手もとで鈍く光る笛を前にすると、用意してきた言葉は、どれも喉の奥で固まってしまった。

祖父は、顔を上げずに言った。

「無理に継がんでええ。受験もあるんだろう。」

「……でも、じいちゃんの代でおしまいになったら。」

「おしまいになるもんは、おしまいになる。」

祖父は、あっさりと言って笑った。②けれど、笛をぬぐう手は、さっきから同じ場所を何度もなでている。蓮は、その手から目をそらせなかった。

「この笛はな、おれが十四のときに、じいさんから受け継いだ。穴のまわりが、すり減っとるだろう。」

差し出された笛を、蓮は両手で受け取った。竹の表面は、手のひらの脂で黒ずみ、指の当たる場所だけが、へこんだようになめらかだった。③そのくぼみに指を置くと、何十年分もの手のぬくもりが、じんわりと伝わってくる気がした。

「吹いてみるか。」

蓮が息を吹きこむと、笛は、かすれた細い音を立てた。祖父は、それを聞いて、目を細めた。

「へたくそだな。」

「ひどいな。」

「だがな、初めてにしては、息がまっすぐだ。」

祖父は、ぽつりと言い足した。蓮は、笛を握りしめたまま、窓の外を見た。山の稜線に、祭りの提灯が、ぽつぽつと灯りはじめている。

「じいちゃん。祭りまでの毎晩、十分でいい。……教えてくれる？」

④祖父は、返事のかわりに、丸めていた背をゆっくりと伸ばした。障子の向こうで、秋の虫の声が、笛の音の余韻のように細く続いていた。

（注）獅子舞（ししまい）……獅子の頭をかぶって舞う、祭りなどで行われる伝統の踊り。　稜線（りょうせん）……山の峰と峰をつなぐ、尾根の線。

問1 ①「祖父の手もとで鈍く光る笛を前にすると、用意してきた言葉は、どれも喉の奥で固まってしまった」とありますが、このときの蓮の様子を説明した文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア 断る理由がうまく思いつかず、どう言えばよいかわからなくなっている様子。

イ 祖父が笛を手入れしていることに腹を立て、話しかける気をなくしている様子。

ウ 祖父が大切にしてきた笛を目の前にして、断ることへのためらいが強まり、言葉が出てこない様子。

エ 笛への興味を失い、祖父の話をまともに聞こうとしていない様子。

問2 ②「けれど、笛をぬぐう手は、さっきから同じ場所を何度もなでている」とありますが、この描写から読み取れる祖父の気持ちとして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア 笛の汚れがなかなか落ちず、いらいらしている気持ち。

イ 蓮が笛を継がないと決めたことに、すっかり安心している気持ち。

ウ 笛を吹けなくなったことを、蓮のせいだと責めたい気持ち。

エ 笛が受け継がれなくなることへのさびしさを、笑ってごまかしている気持ち。

問3 ③「そのくぼみに指を置くと、何十年分もの手のぬくもりが、じんわりと伝わってくる気がした」とありますが、蓮がそのように感じたのはなぜですか。次のようにまとめるとき、空欄にあてはまる内容を、受け継ぐ（形を変えてもよい）、くぼみ の二つの言葉を使って、二十五字以上、三十五字以内で書きなさい。ただし、二つの言葉を使う順序は問いません。（6点）

問4 「だがな、初めてにしては、息がまっすぐだ。」と祖父が言い足したときの祖父の気持ちを説明した文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア 蓮の演奏をからかって、自分のほうが上手だと誇りたい気持ち。

イ 蓮の吹き方のよいところを認め、笛に向き合おうとする蓮の気持ちを後押ししたい気持ち。

ウ 蓮に笛を吹かせたことを後悔し、これ以上は教えまいと思う気持ち。

エ 蓮が笛を継がないと言ったのを聞き、あきらめさせようとする気持ち。

問5 ④「祖父は、返事のかわりに、丸めていた背をゆっくりと伸ばした。」で始まる、本文の結びの二つの文には、どのような効果がありますか。その説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（5点）

ア 背を伸ばす祖父の動作と、虫の声が笛の音の余韻のように続く情景によって、祖父の静かな喜びと、二人の間に生まれたあたたかな余韻を印象づけている。

イ 虫の声の描写によって、祖父が蓮の頼みにいらだっていることを印象づけている。

ウ 祖父が体の痛みに耐えられなくなり、話を打ち切ったことを示している。

エ 蓮が祖父を残して部屋を出ていったことを示し、二人の別れを印象づけている。

問6 本文の表現や構成について述べた文として適切でないものを、次のア～オの中からすべて選び、その記号を答えなさい。（5点）

ア 蓮が祖父に反発し、祭りへの参加を最後まで拒みつづける場面が描かれている。

イ 「あっさりと言って笑った」祖父の様子と、笛をなでる手の動きを対比させることで、祖父の本心がうかがえるように描かれている。

ウ 笛の「黒ずみ」や「くぼみ」の描写は、笛が長い年月、大切に受け継がれてきたことを感じさせる。

エ 「へたくそだな。」「ひどいな。」の短いやりとりは、二人の間の親しみを感じさせる。

オ 結びで、祖父が蓮に腹を立て、笛を取り上げたことが描かれている。

2

問1 ⑴ 次の――部の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に改めなさい。（各2点）

ミスの原因を報告しなかったため、上司から厳しく叱責された。（読み）

問1 ⑵（各2点） 不正を重ねる者のやり方を、人々は唾棄すべきものと考えた。（読み）

問1 ⑶（各2点） 不満を持つ者たちが徒党を組み、会議で自分たちの案を通そうとした。（読み）

問1 ⑷（各2点） 新製品の発売によって、会社のシュウエキが大きく伸びた。（書き）

問1 ⑸（各2点） 新興の企業がタイトウし、業界の勢力図が大きく変わった。（書き）

問1 ⑹（各2点） 父は、駅前の銀行にツトめて二十年になる。（書き）

問2 次の文の――部「気が置けない」の意味として最も適切なものを、あとのア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（2点）

彼とは小学生のころからの友人で、気が置けない間柄だ。

ア 油断ができず、用心しなければならない。

イ 遠慮や気づかいがいらず、うちとけて付き合える。

ウ 気配りが足りず、思いやりに欠けている。

エ 話が合わず、いっしょにいても落ち着かない。

問3 次の場面にあてはまることわざとして最も適切なものを、あとのア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

初めて一人で乗る路線の電車について、乗り換えの駅も発車の時刻も、前の日のうちに何度も確かめた。さらに、乗りそこねたときの別の経路まで調べてから出かけた。（3点）

ア 果報は寝て待て

イ 犬も歩けば棒に当たる

ウ 後の祭り

エ 石橋をたたいて渡る

問4 次の文の〔　　〕にあてはまることわざとして最も適切なものを、あとのア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

もともと守りの堅いチームに、全国でも指折りの攻撃力をもつ選手が新しく加わった。まさに〔　　〕だ。（3点）

ア 鬼に金棒
イ 泣き面に蜂
ウ 月とすっぽん
エ 帯に短したすきに長し

問5 ことわざ「背に腹はかえられぬ」の意味として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（3点）

ア 人は見かけよりも、中身を大切にしなければならないということ。
イ 目の前の大きな問題のためには、ほかのものを犠牲にしてもやむをえないということ。
ウ 大切なものほど、人に見せずに守るべきだということ。
エ 物事を急ぐよりも、時間をかけて慎重に進めるべきだということ。

問6 次の文の〔　　〕にあてはまる四字熟語として最も適切なものを、あとのア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

地域の公園の整備を話し合う会で、ある委員は、自分の家の前の道ばかりを広くする案を強く主張し、ほかの地区の事情には耳を貸さなかった。まさに〔　　〕の主張である。（3点）

ア 自画自賛
イ 付和雷同
ウ 我田引水
エ 一刀両断

問7 L中学校の緑化委員会では、花壇の水やり当番の決め方について話し合っています。次の【話し合いの様子】を読み、〔　Ⅰ　〕にあてはまる司会の発言として最も適切なものを、あとのア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（2点）

【話し合いの様子】

司会「花壇の水やり当番の決め方について、意見を出してください。」
山田「毎日、クラスごとに交代する当番制がいいと思います。みんなで分担できるからです。」
中村「ただ、部活動で帰りが遅くなる日もあるので、当番の日に来られない人が出ませんか。」
司会「〔　Ⅰ　〕。では、来られない日の代わりの人の決め方も含めて、もう少し案を出し合いましょう。」

ア 山田さんと中村さんは、水やりをやめるべきだという点で一致しましたね。
イ 中村さんの意見は、部活動をしている人だけを当番から外すという提案ですね。
ウ 毎日交代する当番制という案に対して、都合が合わない人が出るという課題が示されましたね。
エ 当番制で決まったので、代わりの人の決め方は話し合わなくてよいということですね。

3 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（28点）

「自然を守る」と聞くと、多くの人は、人が立ち入らず、手を触れないでおくことを思い浮かべるだろう。原生林のように、もともと人の手が入っていない自然であれば、確かにそれが正しい。だが、①どんな自然でも、手を触れないのがいちばんよいとは限らない。

その例が、里山である。里山とは、集落のまわりにあり、人々が薪をとったり、落ち葉を集めて肥料にしたりしながら、長い間利用してきた雑木林や田畑、ため池などの一帯をいう。里山の林では、人々が定期的に木を切り、下草を刈ってきた。②そうして手入れされた林には、たっぷりと日光が差しこむ。

日光が届く明るい林では、春になると、カタクリなどの草花が地面一面に咲き、それを求めてチョウやハチが集まる。ところが、燃料が薪から電気やガスに変わり、人々が林に入らなくなると、木は茂り放題になり、林の中は暗くなった。③日光を好む草花は育たなくなり、それに頼っていた昆虫も姿を消していった。

つまり、里山の豊かさは、人が手を入れ続けることによって保たれてきたのである。ここでは、人の暮らしと自然は、対立するものではなく、たがいを支え合う関係にあった。

もちろん、すべての自然に手を入れればよいということではない。原生林に人が手を加えれば、かえって自然を傷つけるおそれがある。大切なのは、その自然が、どのような関わりの中で今の姿になったのかを知ることだ。自然を守るとは、自然から手を引くことと同じではない。その自然にふさわしい関わり方を選ぶことなのだ。

（注）集落（しゅうらく）……人々が家を構えて暮らしている、ひとまとまりの地域。　下草（したくさ）……林の中の地面に生える、背の低い草。

問1 ①「どんな自然でも、手を触れないのがいちばんよいとは限らない」とありますが、この一文は、本文の中でどのような働きをしていますか。その説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア前の段落までの内容をくわしく言いかえ、同じ主張をくり返す働き。
イ前の内容とは反対の考えを示し、次に挙げる里山の例につなげる働き。
ウ里山についての話題をいったん終わらせ、別の話題に移る働き。
エ自然を守るには、人が立ち入らないほうがよいという考えを、結論としてまとめる働き。

問2 ②「そうして手入れされた林には、たっぷりと日光が差しこむ」とありますが、「そうして」が指している内容として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア林に入って、薪をとったり、落ち葉を集めたりしなくなったこと。
イ春になって、カタクリなどの草花が地面一面に咲くこと。
ウ人々が定期的に木を切り、下草を刈ってきたこと。
エ燃料が薪から電気やガスに変わったこと。

問3 ③「日光を好む草花は育たなくなり、それに頼っていた昆虫も姿を消していった」とありますが、そのようになったのはなぜですか。次のようにまとめるとき、空欄にあてはまる内容を、燃料、手入れ（形を変えてもよい）の二つの言葉を使って、二十五字以上、三十五字以内で書きなさい。ただし、二つの言葉を使う順序は問いません。（6点）

問4 本文で述べられている里山の説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア人が立ち入らなかったために、豊かな生き物が保たれてきた林。
イ燃料が変わって人が入らなくなってからも、明るさが変わらなかった林。
ウ人々が利用し、手入れを続けながら、暮らしと深く結びつけてきた集落のまわりの一帯。
エ日光をさえぎるために、人々が木をふやしてきた林。

問5 本文の構成や表現について述べた文として適切でないものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（5点）

ア原生林と里山を比べながら述べることで、自然によって守り方がちがうことを示している。
イ里山とは何かを説明したうえで、具体的な草花や昆虫の例を挙げている。
ウ第4段落の「つまり」を用いて、ここまでの内容をまとめて言いかえている。
エ筆者が里山で長年暮らしてきた体験を、順を追って語ることで、主張を支えている。

問6 本文全体の内容に合う筆者の考えとして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（5点）

アどんな自然でも、人が立ち入らず、そっとしておくのがもっともよい。
イ里山は、人の暮らしが変わった今でも、放っておくだけで豊かさが保たれる。
ウ自然を守るには、その自然がどのように保たれてきたのかを知り、それにふさわしい関わり方を選ぶことが大切だ。
エ里山の草花や昆虫を守るためには、林の木を、できるだけ多く茂らせるべきだ。

4 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（カッコ内は口語訳です。口語訳をつけていない部分もあります。）（16点）

昔、ある寺に、年老いたる僧ありけり。庭に一本の柿の木ありて、秋ごとに、よく実を結びけり。（昔、ある寺に、年を取った僧がいた。庭に一本の柿の木があって、秋ごとに、よく実をつけた。）ある年、弟子ども、「実、よく熟したり。ことごとく取りて、里の人にも分かち給へ。」と言ひければ、僧、①「木の高き枝の実は、鳥のために残せ。」とて、低き枝の実のみを取らせて、里の人に分かちけり。

弟子ども、心のうちに、「もったいなし。」と思ひけり。（弟子たちは、心の中で、「もったいない。」と思った。）その冬、雪深くして、里の人々も食に乏しかりけり。されど、鳥ども、柿の木の上の実を食ひて、②里に下りて畑を荒らすことなし。

弟子ども、これを見て、③「師の、実を残し給ひしは、鳥のためのみにあらず、里のためにもありけり。」と、感じ入りぬ。（弟子たちは、これを見て、「先生が実を残されたのは、鳥のためだけ

ではなく、里のためでもあったのだ。」と、深く感心した。）僧、これを聞きて、「④ことごとく取りつくさんとすれば、かへりて禍ひを招く。少しを残すは、のちのためなり。」と言ひけり。

（注）僧（そう）……仏に仕える人。お坊さん。　弟子（でし）……先生について、教えを受ける人。　里（さと）……人の住む村。　禍ひ（わざわい）……悪いできごと。災難。

問1 ①「『木の高き枝の実は、鳥のために残せ。』」とありますが、僧が弟子たちに求めたことを説明した文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア柿の実をすべて取って、里の人に分けること。
イ鳥が来ないように、高い枝の実から先に取ってしまうこと。
ウ高い枝の実は熟していないので、取らずにおくこと。
エ実の一部を取らずに残しておき、鳥が食べられるようにすること。

問2 ②「里に下りて畑を荒らすことなし」とありますが、鳥がそのようにしたのはなぜですか。その理由として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア雪が深く、鳥が里に下りることができなかったから。
イ柿の木の上に残された実を食べて、食べ物を得ることができたから。
ウ里の人々が畑を見張って、鳥を追い払っていたから。
エ弟子たちが、毎日、鳥にえさをやっていたから。

問3 ③「『師の、実を残し給ひしは、鳥のためのみにあらず、里のためにもありけり。』」とありますが、弟子たちは、僧が実を残したことについて、どのようなことに気づきましたか。次のようにまとめるとき、空欄にあてはまる内容を、現代語で十字以上、二十字以内で書きなさい。（4点）

問4 ④「ことごとく取りつくさんとすれば、かへりて禍ひを招く。少しを残すは、のちのためなり。」とありますが、僧はこの言葉でどのようなことを教えようとしていますか。その説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア目先の利益を取りつくさず、ゆとりを残しておくことが、のちのためになるということ。
イ取れるものは、できるだけ早く取っておくほうが、のちに困らないということ。
ウ鳥に食べ物を分けると、のちに里の人から感謝されるということ。
エ柿の実は、高い枝から先に取ると、のちの収穫が増えるということ。

（以上で問題は終わりです。）